

国立台東大学から研究者と学生が来訪しました（2024/1/23-24）

テーマ：被災地視察

会場：災害科学国際研究所

2024年1月23、24日に、国立台東大学から、公共及び文化事務学科の靳菱菱教授、柯志昌副教授兼公共文化学部長、満田弥生助理教授を含む教職員と学生が、教育活動の一環として当研究所を訪れました。国立台東大学は、1948年に設立された台湾の台東市にある大学です。

村尾修教授（国際防災戦略研究分野）は、1999年9月に発生した台湾集集地震被災地の集集鎮を対象として復興調査を継続的に実施してきました。そうした経緯を踏まえて台東大学との関係が始まり、2023年12月には同大学で講義も行いました。

23日は、当研究所内で村尾教授より歓迎の挨拶があり、その後、お互いの大学や組織の研究内容を紹介し、映画「大津波 3.11 未来への記憶」を鑑賞しました。その後、ボレー・セバスチャン准教授（国際研究推進オフィス）が、文化人類学の観点から日本での研究経験についてインタビューを受けました。夜に行われた懇親会には、ゲルスタ・ユリア助教（災害文化アーカイブ研究分野）も参加し、交流を深めることができました。

24日は、東日本大震災の被災地視察を目的として、宮城県南部（閑上地区、岩沼市沿岸部）を中心に被災と復興に関する説明を村尾教授から受けながら、土地区画整理事業、沿岸部の防潮堤建設状況、災害公営住宅の現状などについて学びました。名取市閑上地区では、現地の町内会長からまちづくりの取り組みなどの話を直接聞くことができました。

今後も更なる親睦を深め、防災の取り組みにおいて台湾と日本の交流に寄与する所存です。



村尾教授の挨拶



千年希望の丘にて



多目的ホールでの様子



集合写真